会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和6年度 第2回相模原市発達障害者支援地域協議会		
事務局 (担当課)	陽光園 療育相談室 電話042-756-8435 (直通)		
開催日時	令和6年11月26日(火) 15時00分～17時00分		
開催場所	相模原市立療育センター陽光園 マルチホール		
出席者	委員	16人(別紙のとおり)	
	その他	3人 地域支援マネージャー2名 松原学齢期部会長	
	事務局	11人 (陽光園所長、発達障害支援センター所長、療育相談室長、他8人)	
公開の可否	☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>1 議題</p> <p>(1) 発達障害支援事業について</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 療育相談室 (資料1)</p> <p style="margin-left: 40px;">(ア) 普及啓発・研修会の主な実績について (令和6年10月末現在)</p> <p style="margin-left: 40px;">(イ) 普及啓発・研修会の主な今後の予定について</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 発達障害支援センター (資料2)</p> <p style="margin-left: 40px;">(ア) 令和6年度実績について(令和6年7月末現在)</p> <p style="margin-left: 40px;">(イ) 発達障害啓発事業について</p> <p style="margin-left: 40px;">(ウ) インクルーシブ・プログラム開発事業について</p> <p style="margin-left: 40px;">(エ) 研修事業について</p> <p>(2) 各部会における取組状況の報告</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 乳幼児期部会 (資料3)</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 学齢期部会 (資料4)</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 成人期部会 (資料5)</p> <p>2 その他</p>		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 議題

会長の進行により議事が進められた

(1) 発達障害支援事業について

ア 療育相談室 (資料1)

(頼本室長より報告)

(ア) 普及啓発・研修会の主な実績について(令和6年10月末現在)

(イ) 普及啓発・研修会の主な今後の予定について

(千谷委員)

生活支援プラン「Map」がいちばん使われるのは就学移行支援である。対象児童およそ500人に対して講座の定員が10人である。各区子育て支援センターで地域のお母さんが気楽に受けられるように周知をするのはどうか。まだまだ書き方などの疑問を抱える保護者が多くいる。どのような対応を考えているか。

(頼本室長)

保育園・幼稚園にも生活支援プラン「Map」について周知しており、お子さんの所属している園で書き方のサポートをお願いしている。しかし、書き方が分からないなどお困りのことや小学校から中学校に進学する時に書き方が分からず困るなど様々な課題などがあると思う。どうしたら支援が継続するのか、引き継がれ易くなるのか課題として考えていきたい。

(日戸会長)

保育士のコーディネーター向けの発達障害に関する講習会で、説明をすると急速に広がると思うのがいかがか。

(頼本室長)

良いアイデアだと思うので、研修を担当している部署と今後検討していきたい。

イ 発達障害支援センター (資料2)

(中山所長より報告)

(ア) 令和6年度実績について(令和6年7月末現在)

(イ) 発達障害啓発事業について

(ウ) インクルーシブ・プログラム開発事業について

(エ) 研修事業について

(西村委員)

間接支援のなかで依頼事業の件数が気になっている。令和3年が多くて8件、令和6年度は0件。依頼事業件数が伸びない要因があれば教えてほしい。また、依頼していい内容があれば教えてほしい。

(中山所長)

今年度は7月時点では0件だったが、現時点までに2件依頼があり対応した。内容としては、相談支援の中で事業所と学校から対応に困っているケースの相談希望があり、機関コンサルテーションをした方が良いか、それとも発達障害というものを基礎からお伝えしたほうが良いか先方と相談していった。結果、今回は2件とも講師依頼を受けて講師派遣を行った。依頼事業については、引き続き相談支援の中からも拾えるものは拾っていきたいと考えている。

(日戸会長)

大人の発達障害のケーススタディは面白そう。前から実施していたか。

(中山所長)

コロナウイルス感染症対策で一時期中断していた。去年から再開。再開してから今年で2回目。

(日戸会長)

大人の発達障害というと様々な方がいると思うが、ここではどんなことをねらいとしているのか、どんな方たちの話が1番あがるのか。例えば、すごくこじれてしまった、引きこもりの人、仕事に就いているが課題がある場合など、どのようなケースか。

(中山所長)

実際の事例検討ケースはこれから参加者の経験年数や所属している事業所の内容を見ながら選定をしていく。現時点の応募者は経験の浅い方が多いようであるので、基礎的で分かりやすいものを題材として取り組めたらと考えている。

(日戸会長)

神谷委員からアドバイスはあるか。

(神谷委員)

大人の発達障害を考えるときに、発達障害の特性自体の強さと、発達障害特有ではないが二次障害が出ている問題があることなど捉え方も広くある。どこまでを発達障害としてとらえるか。発達障害に限らないプラスアルファで出てくる問題をどう捉えるか。自分は分けて考えるのが大事だと考えている。

発達障害というよりは人生の悩みのような場合もある。しっかり発達障害として、医療・治療を含めて支援していく必要があるパターンでは、アセスメントして、しっかりと支援の道筋をたてて対応していくようにしている。

そのあたりを混同してしまうと迷路にはまってしまうこともあるだろう。特に医療に関わる時にはそのあたりを分けて考えた方が良くかもしれない。

(中山所長)

ご意見を研修に生かしていきたい。

(日戸会長)

就労、特別支援学校、ハローワークと連携した研修などの開催は素晴らしい取り組みだと思う。

Q-SACCSについて

(山口地域支援マネージャーより報告)

(日戸会長)

国立リハビリテーションセンターで行われた地域支援マネージャーの研修では、「Q-PASS」の話があったか。

(山口地域支援マネージャー)

同研修のなかで、それぞれの地域でどんな支援が有機的に動いているのかが話題になっていた。各地域の規模等で、完結型での強みと課題をもっと凝縮したもので考えているものもあった。

(日戸会長)

沖縄県がとても良いQ-SACCSを作っていると聞いたが相模原市もとても良い内容だと思う。

本田先生の新しい取り組み「地域Q-PASS」がある。各機関が目的意識をもって地域のシステムを担った時に力を発揮していくものとしている。

Q-SACCSとQ-PASSと事例検討の3点セットで地域のシステムを作っていくと良い。

(2) 各部会における取組状況の報告

ア 乳幼児期部会 (資料3)

(守屋部会長より報告)

(日戸会長)

事例ベースで表を考えられていて素晴らしい。

(村山委員)

国をあげての少子化対策が行われている。お子さんの節目でサポート活動が行われることは頼もしく感じる。事業34ページ記入シートまとめ②こども家庭支援班の「きっかけ」とは事業の名称で良いか。内容について、保護者を呼んでグループワークを行うなど保護者の不安解消につなげていくとあるが、通常では参加できないご家庭を呼んで実施することが良いと思う。どのように保護者が参加してグループワークが行われているのか分かれば知りたい。

(佐藤主任)

「きっかけ」は事業名と聞いている。具体的な支援の内容については、担当課がこの場にはいないため、回答が難しい。

(千谷委員)

学齢期の次の意見交換のテーマが「乳幼児期から学齢期へのつなぎの支援」とある一方で、乳幼児期の「次回に向けて」には「学齢期とのつなぎの確認、整理」とある。2つの部会を一緒にやるという企画はあるのか。35頁まとめ③で、就学相談のハードルが高いのはよく分かる。だから就学移行支援がある。就学後、不応は辛い。ただ、通級や転籍が本人にとって苦しい選択だというのは違うのではないかと思った。ケースバイケースではあるが、学習が追いつかないお子さんが通級に行くことで自信を取り戻すこともある。通級や転籍がネガティブなものだと乳幼児期部会の方が考えているということが相手を知らないということかなと感じた。相手を知ることが必要だと思った。Q-SACCSを用いて2つの部会が同じ部分のテーマを話すのであれば意見交換などすると良いと思う。

(守屋部会長)

可能であれば実施できたらありがたい。そういう取り組みをやるのは事務局の判断になるか。

(佐藤主任)

事務局内でも意見がでているところであるので、検討していきたい。

(日戸会長)

このように話題が深まり、連携事例に即した検討がすすめられているのはとても良いことだと思う。

イ 学齢期部会 (資料4)
(松原部会長より報告)

(柳場委員)

相談に行けるかどうかは親の問題だと思っている。そういう情報は会の相談事業に持っていけるようにしたいと思っている。親の会は発達障害の重い人が多くいる。レジャーやおやじの会等様々な場で状況、意見等を話し合っている。就労に関して発達障害のある人は、臨機に対応する清掃関係の業務は難しいのではと、思っている。二人の発達障害の方が清掃の仕事をしている。上司の指示の出し方、話を聞いてあげることで、楽しくできるような気がしている。上司が変わることによって、今まで行っていた業務がダメになってしまう方もいる。そのあたりも考えてもらいたい。その人をよく見て、何が必要か考えてもらえれば、それなりの仕事ができるので、対応する人の知識を養っていただきたい。その方の話をよく聞いてあげて、否定しないでやっていくうちに、話を聞けるようになって、それが就労につながっていく実感がある。

ウ 成人期部会 (資料5)
(西村部会長より報告)

(星野委員)

学校として、巡回相談にどんどん行くようにしていたが、県と市で自治体の違いをどう整理していくのか難しいと思った。

(日戸会長)

Q-SACCSを作成しつつ、事例検討もしているので有意義だと感じた。

乳幼児期も成人期も、学齢期部会と一緒に開催したいとあったので、来年度の開催にあたっては検討をお願いしたい。

(神谷委員)

各部会はたくさんの方が知恵と時間を使ってブラッシュアップしていることに感動した。学齢期を一括りにするには長い。小学校低学年と高学年や中学生とはだいぶ違う。その後も子どもによって社会に出るタイミングも違う。幼少期は小児科が、18歳以降は精神科が診るが、その間を診る人がなかなかいない中で9、10歳くらいから関わり方を変えている。学齢期部会が担う役割は大きく難しい。両部会とコラボしていくという発想もある。学齢期部会の若年層と成人期に向かう社会を見据えた関わりを一括で考えることは難しいと思う。

インターフェースを考えることは大事。見れていないところを見ないと支援につながらないという発想がある。医療だけ考えていても支えることはできない部分があり、学校や生活や社会を考慮している。自分が担っているフィールドを押さえるだけでは足りない。「乳幼児期の子が就学時期に大変になるだろうとか、また学校では間違っていないのだけど、このまま留まってしまうと社会に出たら大変だろう」と先を考えて次につなげるように支援していかなければならないと感じる。次につなげることを考え続けないと機能しないのではないかと、自らの反省を踏まえて少し区切りを超えたつながりを意識した支援をアップデートしていければ良いと思う。

(日戸会長)

本日も深い議論ができたと思う。たくさんの意見と準備ありがとうございました。

以 上

令和6年度 相模原市発達障害者支援地域協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属	備 考	出欠席
1	日戸 由刈	相模女子大学	会長	出席
2	大山 宜秀	一般社団法人相模原市医師会	副会長	欠席
3	神谷 俊介	北里大学病院		出席
4	柳場 秀雄	相模原市自閉症児・者親の会		出席
5	鈴木 秀美	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		欠席
6	西村 三郎	社会福祉法人風の谷		出席
7	赤石澤 勝	地域活動支援センターカミング		欠席
8	斎藤 優子	社会福祉法人すずらんの会ぱれっと		出席
9	千谷 史子	NPO法人ワンダートンネル		出席
10	守屋 久	児童発達支援センター青い鳥		出席
11	村山 毅	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団		出席
12	星野 進	神奈川県立津久井支援学校		出席
13	三谷 将史	学校教育課	代理出席	出席
14	折原 奈帆	青少年相談センター		出席
15	鹿子木ひとみ	相模原公共職業安定所		出席
16	小野崎 雄一	相模原警察署生活安全第一課		欠席
17	沼田 好明	高齢・障害者福祉課		欠席
18	草野 明朗	精神保健福祉センター		欠席
19	井上 康臣	緑高齢・障害者相談課		出席
20	佐藤 泰弘	保育課	代理出席	出席
21	中嶋 雅樹	こども家庭課		欠席
22	山口 幸司	緑子育て支援センター		出席
23	江成 浩史	児童相談所		出席